

そよかぜ診療所での研修を終えて

神戸大学医学部附属病院 初期研修医

一ノ瀬 祐人

そよかぜ診療所での1ヶ月間は、自身の医師人生にとってかけがえのないものとなりました。簡単ではありますが診療所での経験をお話したいと思います。

そよかぜ診療所では採血やエコー検査・訪問診療等に携わりますが、初めの1週間は先生方のご指導のもと行うので、不安などはなく取り組むことが出来ます。また、1ヶ月間でかなりの数をこなすことが出来るのでどれも研修終了間際には自信を持って取り組む事が出来るようになります。

訪問診療では同じ患者さんを何度か診察させて頂くこともあり、自信が主治医になったつもりで診療に臨みます。患者さんが「どうしたいのか」、「何が困っているのか」を傾聴し家族と一緒に解決策を練る時間は重要な時間です。

静子先生に教えて頂きましたが、地域に根ざした医療というのは、“信頼”が最も重要で、私もこの1ヶ月でそう実感しました。

また、そよかぜ診療所では医師や看護師だけではなく診療所を支える様々なスタッフの方々が働かれています。その方々の働きから、地域医療においては1人の患者さんを看護面・介護面・リハビリ面などの多様な角度から見ていく必要があると感じました。

自身が今後どのような病院で働き、患者さんにどのような医療を提供するかはハッキリとは分かりませんが、そよかぜ診療所で学んだ患者さんとの信頼関係や、患者さんを多面的に診る考え方は自身の糧になったと思います。

最後になりますが、秀樹先生・静子先生・黒瀬先生、そして看護師の方々や診療所スタッフの方々、本当にありがとうございました。ご迷惑をお掛けすることが多々あったかと思いますが非常に有意義な1ヶ月となりました。そよかぜ診療所を選択して本当に良かったなと思います。

また朝来に行った際は、ご挨拶させていただきます。ありがとうございました。